



= いまの憲法が私たちの暮らしを守る =



日本はアメリカの言いなりか?!

脳首米 談

共同声明は軍事同盟の歴史的な大変質

岸田首相は先月、日米首脳 日本国憲法と相いれませんか。

会談に臨み実質的な軍事同盟

として歴史的ともいえる「日米共同声明」を出しました。

米側が岸田政権による軍事

費増や敵基地攻撃能力の保

有を歓迎したうえで、作戦及

び能力の切れ目なしの統合を

可能にするため、それぞれの

指揮・統制の枠組みを向上さ

せると明記しました。

岸田首相は、米軍と自衛隊

の指揮系統はそれぞれ独立し

ていると繰り返ししているが、

情報も装備でも圧倒的に優越

な力を持つ米軍と、作戦及び

能力のシームレスな統合を凶

るならば、自衛隊が対中国軍

事戦略を推進する米軍の指揮

下に組み込まれることは明らか

です。

同盟とはいえ他国軍に指揮

されているの自国防衛などは主権

国家として自主独立を損ない

ます。

▽軍事的緊張と対抗を激化させ、悪循環を招く危険な道

共同声明で、米英豪による

対中国の軍事的抑止を図る事

実上の軍事同盟であるオーカ

ス(米英豪の軍事同盟)と日

本が先端軍事技術での協力の

検討を宣言したことは重大で

す。

▽死の商人国家への道

岸田政権がこの間、殺傷武

器の輸出拡大を強行したこと

を歓迎し、日米共同でのミサ

イル開発・生産を進めること

を宣言しました。

これは、武器の輸出を国是

として全面的に禁止してきた

武器輸出三原則が根本理念と

してきた国際紛争の助長を回

避するという平和国家の理念

を根底から投げ捨てるもので

あり、憲法に反して絶対に

許されるものではありません。

▽戦争の準備ではなく外交



日米共同声明を発表する岸田首相とバイデン米大統領 2024年4月10日

による平和の準備を!

共同声明で、日米同盟の抑

止力を理由に、沖縄県辺野古

新基地建設を唯一の解決策と

して強行したことは、沖縄県

民多数の意思に反するもので

す。

また、東南アジア諸国連合

(ASEAN)の取り組みへの支持

を打ち出しているが、そうで

あるならば軍事的対応の強化

でなく、九条にもとづく平和

外交にこそ力を注ぐべきです。

軍事同盟強化や大軍拡をや

め、外交による平和創出に徹

することで希望ある未来へと

〈日本国憲法第11条〉

国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。

基本的人権の尊重は民主主義の根幹をなすものです。

憲法第11条は人種、性別、身分などに関係なく人間として生まれながらに持っている自然権を国家は妨げてはいけないとし、つづいて「侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与えられる」と結んでいる。だが自民党改憲草案では前段の妨げられないが削除され、単なる「享有する」に変えられたか人も人権は国から与えられるものですよと誤解させたいようです。

講演とピースパレード

日本は”死の商人”国家になるのか!

～殺傷武器の輸出入を止めよう～

主催 平和のための戦争展・のだ 2024 実行委員会

5/19(日)

1部

講演 杉原浩司さん 武器取引反対ネットワーク代表
中央公民館 講堂 13:30~15:00
資料代 500円

2部

ピースパレード 講演終了後 樺のホールまで
15:30 出発 中央公民館 ▶ 16:30 樺のホール到着
旗、うちわ、プラカード・・・などをもって元気にアピールして
行進しましょう!



講師 杉原浩司さん



樺のホール

今月の予定です



5月9日(木) 16:00~17:00

九条通信配布とアピール

川間駅 北口広場 野田・九条の会

9の日 行動

5月11日(土) 13:30~16:00

野田・九条の会 学習 憲法第11~14条基本的人権
5月例会 「新しい憲法のはなし」を教材に
中央公民館 講座室 野田・九条の会

5月12日(日) 13:30~16:50

DVD視聴と 警視庁公安部で何が起きているのか?!
意見交換 冤(えん)罪の深層
南部梅郷公民館 南地域九条の会

5月19日(日) 13:30~16:30

講演とパレード「日本は死の商人国家になるのか!!!」
殺傷武器の輸出入を止めよう
中央公民館 ~ 樺のホール 平和のための戦争展実行委員会

上記のため ちよっと変わった「おしゃべりカフェ」はお休みします。

6月2日(日) 13:30~16:50

DVD視聴と意見交換「GHQ 6年8ヶ月マッカーサーの野望と挫折」
南部梅郷公民館 南地域九条の会

日米の”軍事で緊密連携” 自衛隊は在日米軍の下に指揮される

岸田首相は4月の訪米時にバイデン大統領と、日米は中国の覇権主義に対し自衛隊と在日米軍の連携を緊密にし指揮・統制の見直しをすると述べた。首相は「日本は米国とともにあります」ともいい、先月衆院では自衛隊の「統合作戦司令部」の創設を可決したことにより、実質的には自衛隊の指揮権は在日米軍の下に入らざるを得なくなり主権の放棄につながる。

自衛隊は米軍の指揮のもとで戦う



「知ってはいけない 隠された日本支配の構造」
矢部宏治 著 講談社現代新書より

米軍指揮下に入る自衛隊

在日米軍との連携強化をはかるとする統合作戦司令部を創設したところで表面的なものとなることは歴史を辿れば明らかだ。自衛隊の起源は朝鮮戦争時の警察予備隊で、保安隊を経ていまに至り常に在日米軍と共にある。新旧安保条約、地位協定そして日米合同委員会での取り決めや密約の存在は自衛隊の指揮権独立を危うくしている。1952年7月23日吉田首相とクラーク米陸軍大将との会談では「日本の軍隊（当時の警察予備隊）は米軍の指揮の下、司令官は合衆国に任命されるべきである」で同意している。はるか以前のことはいいこの密約は生きている。平時・戦時の指揮権は米軍司令官にあり、覇権争いの前線に立つのは東アジアでは自衛隊であり韓国軍となる。

憲法からとるべき道は

米中の覇権争いに日本のとるべき道はどちらにも加担、擦り寄るべきではない。密約が存在する中、改憲で自衛隊を書き込めば岸田首相の進める米国との緊密連携で日本は米軍支配から抜け出せなくなる。いま私たち一人ひとりが現憲法から問われている。「これで良いのか」「憲法違反では」と。しっかり考えてみよう。

“なんでも気軽に話そう”
ちょっと硬派な
おしゃべりカフェ

6/19(水)

“参加してみませんか”

北コミ 13:30



知らないこと、知らされないこと

マイナーなスポーツで、世界を目指す少女を追った、架空のドキュメンタリー番組を観た。

競技自体も勿論架空で、ありそうな、なさそうなものだが、10年前に日本は静岡県を境に東西二つの国に分断され、少女の住む東日本国ではさらに競技人口が減ったという。荒唐無稽な話であるが、ふと考えると、同じようなことが、70年以上前、朝鮮半島で起きている。

北緯38度線を境に、国民は南北に分かれたが、日本にいた人達は、出身地によって分かれたのではなかったようである。彼等は北か南かの国籍を選択した。在日の人に、韓国の南に位置する、済州

島の出身者が多いというのは以前から知っていたが、この島で、1948年4月3日に、分断に反対する人達が蜂起し、その後数年にわたって関係のない多数の島民まで軍や警察に虐殺されたことは在日朝鮮人のヤン・ヨンヒ監督が、自身の母親を撮ったドキュメンタリー映画「スープとイデオロギー」を最近観るまで知らなかった。

この映画では監督の母親は済州島で事件に巻き込まれ、幼い妹をおぶい、弟を連れ30Km歩き、密航船に乗って日本に辿り着いた。南の政府に失望し、北の国籍を選んだ。在日の人には、そんな人が多いという。

家族を描いたドキュメンタリーと、偽ドキュメンタリーを観て、考えさせられた。

藤代秀子